市民と野党の共闘で政治を変えよう。憲法、くらし、平和を大切にする都政を

# 都民がつくる革新都政

発行：革新都政をつくる会
発行人・中山　伸
〒170-0005　豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館5F　電話（5978）4031
HP:https://www.kakushintosei.net
E-mail: info@kakushintosei.org
（1部25円、送料は別途）

都知事選挙振り返り会と挨拶する蓮舫さん　（写真、しんぶん赤旗提供）

## 2024都知事選挙
## 市民と野党の共闘に大きな役割

７月７日投票でたたかわれた東京都知事選挙。革新都政をつくる会は、たたかいの余韻が残る同月１９日、代表世話人会を開催し、市民と野党の共闘でたたかわれた歴史的な選挙戦挙の総括と次ぎなるたたかいに向けたとりくみを議論、当面の方針を決定しました。

### 代表世話人会で議論と総括
### ひろがるつくる会への信頼と期待

冒頭、会は中山伸事務局長が都知事選挙の結果について、選挙後、会が発表した「声明」にもとづいて報告。

今回の選挙では革新都政をつくる会が「市民と野党の共闘で都政転換」をめざす呼びかけ人会議とともに粘り強くとりくんできた市民と野党の共闘が実現、その市民と野党が擁立した蓮舫都知事候補が選挙戦の先頭に立って奮闘されたこと、労働団体や女性、医療、業者、青年など各分野の団体、各地域での市民と野党の共闘組織が蓮舫都知事の実現をめざして、昼夜をわかたず大奮闘したこと。さらに都民要求に根ざした対決点の押し出しとボトムアップでの政策・提言のとりくみなど、市民と野党の共闘のたたかいの意義が実証され、新しい民主主義の動きとなって、新しいたたかいへの発展の希望を生み出したと強調しました。

つづいて、田辺良彦日本共産党都委員長が「都知事選挙・都議補欠選挙のたたかいと結果」について報告。田辺氏は残念な結果だったが、蓮舫氏も都議補選も大健闘だったと述べ、石丸氏の得票をどうとらえるか、このたたかいからどういう教訓をひきだすかについて各地での論議を紹介し、都知事選の総括と課題について提起しました。

各代表世話人からは各団体の報告・総括発言などをふまえた発言がおこなわれ、蓮舫候補の大奮闘を讃えるとともに、今回の選挙で「ひとり街宣」「ボランティアセンター」など市民が主人公となったあらたな運動の発展がつくられたことなどが交流されました。また、各団体での推薦決定から宣伝・支持拡大のとりくみ、各団体の対都要求と選挙政策、選挙戦を通じての市民と野党の共闘の発展、街宣・宣伝の課題、ＳＮＳによる選挙運動の大きな変化、石丸候補について出されている議論など、活発に意見交換がおこなわれ、都知事選挙後の対都要求実現をめざす取り組みも紹介もされました。

議論を通して、歴史的な都知事選挙において果たした革新都政をつくる会の重要な役割を確認、共有することができました。同時に、革新都政をつくる会として団体地域代表者会議を8月２９日（木）夜、東京労働会館ラパスホールで開催し、各団体・地域でのとりくみをふまえた総括をおこない、都民要求実現・都民が主人公の都政をめざすとりくみについて、意思統一をおこなうことを決定しました。

市民と野党の共闘の実現に歴史的な役割を果たした呼びかけ人会議など市民と野党の共闘のさらなる発展をめざすとりくみ、２０２５年度予算要求の運動、都議会第３回定例会開会前宣伝（９月１７日）の実施を決めました。

**団体地域代表者会議**
日時：8月29日(木)
18:30～
会場：東京労働会館
7階ラパスホール
議題：都知事選挙総括及び都民要求実現・都民が主人公の都政をめざすとりくみのための意思統一

### 今後の東京と日本の政治を変える大きな財産
### 「都知事選挙振り返り会」で議論

７月２２日、蓮舫候補を実現した候補者選定委員と選挙戦を最前線でたたかった地域の共闘組織による都知事選挙振り返り会が開催されました。会議には蓮舫氏が出席し、「みなさんに最高の景色を見せていただいた。選挙で訴えた若者支援や雇用改善、多様性の尊重、誰かの夢を笑わない社会は今後も求めていかねばならない」「選挙後の圧力はあるが、黙らず声を上げつづけ、みなさんと一緒歩いていきたい」と挨拶を述べました。

候補者選定委員としてまた地域の共闘で奮闘された宇都宮健児弁護士は「候補者選定委員会で最高最強の候補者として蓮舫さんを選んだことを、大変誇りに思う」と述べるとともに「蓮舫さんへのバッシングに対して、私たちも蓮舫さんと一緒にたたかっていく」と訴えました。

討論では、立候補・大奮闘された蓮舫さんへの感謝が語られるとともに、東京でのはじめての共闘のとりくみが大きく広がったことへの確信が表明されました。同時に共闘による態勢構築や政策協定、対等平等の運営などについて厳しい指摘もおこなわれました。日本共産党の小池晃書記局長からは「今後の東京と日本の政治を変える大きな財産になるたたかいだった」「みんなの力で課題を乗り越えてすすもう」と訴えがありました。

### 2025年度予算編成方針
### さらなる東京大改造最優先・都民置き去り

８月２日、２０２５年度東京都予算編成方針「令和７年度予算の見積りについて」（副知事依命通達）が発表され、来年度予算の編成作業がスタートしました。

来年度予算は今夏たたかわれた都知事選挙で問われた「財界ファースト、都民置き去り」の都政運営について小池都知事がどういう姿勢を示すのかが問われることとなりますが、発表された方針はこれまで以上に東京大改造をうちだしたものとなっており、小池都知事が昨年末に都知事選挙対策として打ちだした「ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクト」２０２３年版を基本に「東京が世界の成長を牽引し新しい、活力あふれる都市へと飛躍するため」の「国際競争力の強化」があらためて強調され、地球温暖化の最大の元凶となっている超高層ビル群による大規模、同時多発的な再開発の聖域化、予算の重点配分が押しだされています。同時に都民施策に対してはゼロシーリングの継続に止まらず、１０％の減額や施策見直しを求めるものとなっており、財界ファースト、都民置き去りの都政運営を継続・拡大するものとなっています。

**都議会第3回定例会**
**開会前宣伝行動**
9月17日(火) 17:00～
新宿駅西口　（予定）
開会　9月18日(水)～
閉会 10月4(金) 予定

### 青い空

知事選が終わって小池百合子三選となったが、その小池都知事が現職の候補者でありながら政策論争から逃げつづけ候補者によるテレビ討論が殆ど行われなかったことについて一言、申しておきたい▼石原慎太郎氏が三選目を迎えた知事選は二〇〇七年であった。その時行われたテレビ討論は告示前六回。告示後一回、計七回であった。石原氏はその全部に出席した。こんな言い方は好みではないが「石原氏に比べても……」である▼当時の論争テーマはオリンピック、首都移転、築地市場移転、新銀行東京などである。テレ朝「ニュースステーション」の当時の司会者古館伊知郎氏が番組の終わりに「福祉の問題がだいじなのにその問題にいく前に時間切れになってしまったことが悔やまれる」といった▼いつでもそうだが都政をめぐる問題は多岐にわたっている。今回の選挙も同じだ。だから火花散るテレビ討論がだいじなのだ。それを審判を受ける責任が最も大きい現職の候補者が逃げまわってテレビ討論が行われなかった。これは都民から都政に対する認識を深める機会を奪ったことにほかならない。▼都民ファーストを唱えた小池氏に問いたい。あなたにとって都民とは何なのか（木）

視　点

# 虚構の石丸旋風を演出したのは誰か

2024年都知事選挙は小池都知事が3選を果たしたものの前回選挙より74万票を減らした一方、前広島市安芸高田市市長であった石丸伸治候補が1,658,363票、得票率24.3％を得て次点となりました。

これは選挙前には想定されていなかった結果でした。この選挙にあたって石丸候補は「政治屋一掃」「政党に属さない人間が知事になれば、政治が変わる」などと演説を展開。マスコミもこれに呼応するかのように「既成政党対石丸」「組織票対ネット・SNS」などと対決構図を描き、小池都知事も都民を前にした論戦を回避することで、小池都政8年の都政運営の検証と評価、政策を軸とした論戦を後景に押しやったのです。しかし、テレビ討論をはじめ公開討論会や街頭演説などを通して、都民の前で政策論戦がたたかわれていれば、政策なし、ネット依存選挙の石丸候補の旋風が起こることはなかったのではないでしょうか。

では、石丸候補はマスコミが描いたような孤高の候補者であり、市民ボランティアやSNSの力だけであれだけの得票を獲得することができたというのでしょうか。

その石丸選挙の舞台裏が選挙後、明らかにされてきました。驚くことに石丸陣営の選挙は5000万円などの巨額寄附、選挙事務所、選挙スタッフ、宣伝カー、チラシに至るまで財界人脈の物心両面にわたる支援をうけ、選対本部長に座った萩生田光一自民党衆院議員が主宰するTOKYO自民党政経塾の塾長代行を務める人物の総指揮のもと緻密な組織戦が展開されていたのです。この選対本部長は永田町で知らない者がいないという伝説の人物で、石丸選対就任のいきさつについて、ある雑誌で「最初、本人から打診があったけれど（略）断るつもりでした。ところが翌日、ドトールコヒー創業者の鳥羽（博道）名誉会長から電話が来て、『一生のお願いがある彼を頼む』と。それで引き受けたんです」と述べているように、自民党都政陥落を恐れた財界・支配層肝いりで選挙体制が組み立てられていたのです。

また、石丸候補は密かに維新の会に対して表に出ない形での支援を要請していました。さらに公明党も一枚岩でなく一部が石丸支援にまわっていたともいわれています。反既成政党の旗を掲げながら石丸候補は、財界まるがかえ、既成政党の枠組みによる組織戦を展開していたのです。

蓮舫候補と市民と野党の共闘を既成政党にくくり、形勢の悪い小池候補を側面から支える別働隊としての役割を果たしたといえます。

＜特別寄稿＞

# 市民と野党の共闘で蓮舫さん叩きを跳ね返す

フェミブリッジ事務局　西山千恵子

市民と野党の力を集めて闘った都知事選、有力視されていた蓮舫さんが3位の結果に終わりました。その蓮舫さんに選挙後もSNSのみならず、大手メディアを通して激しいバッシングが行われています。容姿に言及するもの、国会での鋭い追及の側面を「キツイ」「攻撃的な性格」などにすり替えたもの、またSNSでは「二重国籍」「台湾人」「中国人」と、事実と異なる国籍や人種を掲げて非難するものが目立ちます。これは国籍・人種差別を伴うものです。

（写真、しんぶん赤旗提供）

男性中心社会を揺さぶる女性たちに対し、容姿や言動をあげつらい、執拗に攻撃する。その風潮の背景には根深い女性蔑視や女性憎悪があります。蓮舫さんバッシングはこの社会のありようを正そうと声を上げるすべての女性たちへの攻撃でもあり、脅しでもあります。こんな社会でジェンダー平等はいつ達成されるのでしょうか。

こうした状況に対し、市民連合の女性たちを中心として発足したフェミブリッジは7月21日（日）、新宿駅前で「女たちは黙らないよ！WithR」という緊急街宣を打ちました。3日足らずの告知で200人近い女性たちが参加、日本共産党の吉良よし子参院議員の飛込参加・発言以外はすべて市民によるスピーチ、蓮舫さんへの連帯と熱い思いを語りました。

異常なまでの蓮舫さんバッシングには、この機会に市民と野党の共闘を分断しようとする狙いも見て取れます。そんな流れにハッキリと声をあげようと、フェミブリッジは、蓮舫さんを推した都知事選候補者選定委員会に参加した他団体と協力し「私たちは黙らないよ！やっぱり市民と野党の共闘で」という街頭宣伝を8月9日に企画しました。

選挙後も日々の取組は続きます。

—検証—
革新都政その後
連載第63回

# 都知事選挙で問われたもの

## 都民の前での論戦回避、自民党ステルス作戦で浮上

卯月はじめ

7月7日投票でたたかわれた2024年都知事選挙。マスコミでも小池都政8年の都政運営の評価が問われる選挙と指摘されましたが、現職の都知事候補である小池都知事は、公務と称して直接、都民に訴え都民の審判を仰ぐことも、蓮舫候補と真正面から対峙することも避けつづけました。また、過去には告示前・告示後を通じて複数回実施され、主要な争点についての論戦が交わされ、候補者の政治姿勢や人物像について都民が確かめることでき、選挙公報やポスター、チラシなどでは知ることができない投票にあたっての審判の材料を提供できるテレビ討論についても、出席を拒むことですべて流してしまったのです。

これは自身が最も頼りとしてきた自民党が裏金問題や相次ぐ不祥事の発覚などで国民の信頼を失っているもとで、票の上積みを期待できない、期待でないどころか足を引っ張られ兼ねないという事態に直面させられていたこと、また、この8年の都政運営について、明治神宮外苑再開発に象徴される超高層ビル中心の東京大改造によるヒートアイランド化と異常気象の増大、止まることを知らない貧困の格差の拡大、非正規雇用の増大と大企業の天井知らずの内部留保・富の収奪、選挙対策としての少子化対策パフォーマンス、オリンピック・築地市場・情報開示、さらには保育所待機児ゼロをはじめとする7つのゼロなどの公約破りなどが都民の前に明らかにされ、2020年都知事選挙で7割の支持を誇ったにもかかわらず、今回はその支持が33％に急落、「小池都政の継続が望ましい」とする都民はわずか24％、にまで落ち込んだこと（JX世論調査）をふまえた作戦に他なりませんでした。

### 暗闇選挙に便乗

また、小池都知事は都民の前での論戦を逃げまくる一方で、選挙対策としての露出を意図した視察を20何回もセット。これをマスコミが無批判に報道するという場面がくり返されました。これについて識者から異議ありの声が上げられ、都庁幹部OBからは予定があらかじめ決まっている重要な公的会合などを除いて、選挙期間中の視察などは公職選挙法に抵触するので、どの自治体でもやっていないと厳しく批判をしています。

さらに現行の公職選挙法ではヨーロッパでは当然の権利として認められている戸別訪問をはじめ候補者名や公約などを記載したチラシ、標旗を持った選挙カー以外による宣伝、ハンドマイク宣伝が禁止されている「暗闇選挙」が国民に押しつけられており、自由な選挙が抑制されたもとでの体制派、現職有利の選挙での都知事選挙であったことも厳しく批判されなければなりません。

### 自民党ステルス作戦

今回の選挙で小池都知事は国民的批判を浴びている自民党による表だっての支援は逆効果になると考え、推薦を求めないという作戦を展開しました。

しかし、その裏で、自民党は「（政党に推薦を求めない）知事の姿勢を踏まえた」として推薦などの機関決定は見送ったものの、自民党本部の森山裕総務会長が小池氏の都政運営について「子育て支援や災害対策で着実に実績を挙げてきた。多くの都民から高い評価を得ている」と述べ、小渕優子選対委員長が「都連と連携を図りつつ、必要な支援を行っていきたい」と表明。政党色・党派色を薄めた形で現職の小池知事を支援するため、ステルス（隠密）作戦を実施しました。

そして自民党本部に事務局を置く各種団体協議会（注）がステルス作戦の実行部隊となり、選挙戦終盤には、京王プラザホテルで自民党都連主催の小池都知事支援を目的とした「各種団体総決起大会」が開催され、小池都知事は約300の業界団体の関係者を前に「電話をかけてください。ご支援をよろしくお願いします」と懇請したと言います。自民党に抱っこしてもらい知事の座を守ったにすぎません。

（注）自民党の政策理念を通じて、中小企業の安定と繁栄を図ることを目的に、自民党を支援する東京都内の様々な業種の業界団体300余で構成。自民党東京都連と表裏一体となって自民党の議員や候補者を支援。